

実質化された人・農地プラン

| 市町村名 | 対象地区名(地区内集落名) | 作成年月日 | 直近の更新年月日 |
|------|---|-----------|----------|
| 朝日町 | 西部地区(常盤、夏草、長沼、西船渡、八ツ沼、能中、高田、太郎第一、太郎第二、太郎第三、石須部、立木、白倉、松程、大船木、今平) | 令和4年2月25日 | 年 月 日 |

1 対象地区の現状

| | |
|--------------------------------------|-------|
| ①地区内の耕地面積 | 319ha |
| ②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計 | 210ha |
| ③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計 | 49ha |
| i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計 | 32ha |
| ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計 | 7.5ha |
| ④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 | 8ha |
| (備考) | |

- 注1:③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

当地区は、アンケート調査結果より、生産者の高齢化、担い手不足が進んでおり担い手の確保が課題となっている。
農地保全のため、担い手の確保、農地集積化が急務である。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

水田:生産者の高齢化による担い手不足が進む状況下であり、以下の項目の取組みが必要
・農業体験等イベントを実施し、新たな担い手の創出、担い手の確保を図る
・作業効率を高めるために、今後スマート農業化を進め、農地集積化を図る
・米の新たなブランド化に取り組む

果樹園:生産者の高齢化による担い手不足が進む状況下であり、以下の項目の取組みが必要
・農業体験等イベントを実施し、新たな担い手の創出、担い手の確保を図る
・6次産業の推進による農業所得のアップを図る
・りんごの戦略的ブランド化に取り組む

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

| |
|--|
| <p>主力農産物の商品力強化と新たなブランド化への挑戦</p> <ul style="list-style-type: none">①主力農産物である米とリンゴの戦略的なブランド化を図り商品力を強化させる②ナッツなどの新たな作物へ挑戦することにより農業所得をアップさせる③既存商品の価値がより高まるように販売方法の仕組みを考える |
| <p>イベントの開催により交流人口を増加させ地域農業の活性化と次世代の担い手を創出</p> <ul style="list-style-type: none">①既存の農地や施設を活用し、四季折々の楽しい体験型のイベント企画と開発を行う②りんごスイーツ全国大会を朝日町で開催しSNS等を通じて全国に発信して農業の魅力をアップさせる③観光×農業体験のイベント開催によりファンを増やす |
| <p>労働力と担い手の確保</p> <ul style="list-style-type: none">①次世代の担い手となる子ども等に農業体験を実施する②農作業請負の組織化を図る(昔の白川軍団の復活)③軽労化のためスマート農業を導入・活用できる人材を育成し、コストカットと規模拡大を同時に進めることによる所得向上を可能にする |
| |
| |